

James Dickey の詩と人生
——“A Folk Singer of the Thirties”に見る
仮面のインサイダーとしての社会批評に関して——

小 林 愛 明

0. はじめに

ジェイムズ・ディッキー（James Dickey, 1923-97）はジョージア州出身のアメリカの詩人・小説家で、特に第二次世界大戦時の従軍経験が彼の文学に深い影響を与えた。彼の主要な作品は、戦争などの極限状態における人間の複雑な心理や生命の儚さを描く点で高く評価されている。

ディッキーの名を世に広めたのは、1970年の小説 *Deliverance*（邦題『救い出される』）である。南部の大自然を舞台に、過酷なサバイバルを描いたこの作品は高く評価され、1972年にはジョン・ブアマン（John Boorman, 1933-）監督が映画化し、ディッキーの知名度をさらに押し上げた。また、彼は1966年から68年までアメリカ議会図書館詩部門の顧問を務めている。

一方、ディッキーに対する評価は賛否が分かれており、1980年代に入ると、人種や性別に関する差別的な発言が原因で人気が急速に低下した。さらに、1987年の *Alnilam* や1993年の *To the White Sea* といった小説も *Deliverance* ほどの評価を得ることはできなかった。1992年には詩作活動の集大成として、自信作を集めた *The Whole Motion: Collected Poems, 1945-1992* を出版したが、大きな注目を集めることはなかった。日本でも *Deliverance* と *To the White Sea* の翻訳書が出版され、映画版 *Deliverance* も字幕付き Blu-ray で容易に入手できるが、ディッキーの作品を考察した論文は非常に限られている。

しかし、ディッキーの再評価は着実に進んでいる。特に、1984 年から続く *James Dickey Review* のような学術的な取り組みがその中心となっている。直近の例としては、ディッキー没後 10 年を記念して編纂された *The Way We Read James Dickey: Critical Approaches for the Twenty-First Century* (2009) が挙げられる。この書籍には、従来のディッキーに対する見方を払拭し、新たな視点で考察する論文が数多く収められている。ただし、再評価が進む一方で、彼の文学的地位は依然として定まっていないのが現状である。

ディッキーに対する評価の揺れは、彼が公の場で身に付けていた仮面（ペルソナ）に起因している。Calhoun が指摘するように、ディッキーはメディアの前で常に「ギタリスト、弓矢を持つハンター、マッチョな作家」などの姿を演じていた (Calhoun, *James Dickey* 1)。こうした彼の姿勢を象徴するのが、1976 年に *Esquire* 誌の表紙を飾った、カウボーイハットをかぶり、自分のライフマスクを着用した写真である。また、*Poetry Foundation* の紹介記事に使用されている別の写真では、同じマスクの後ろから素顔を覗かせるディッキーが写っている。その写真を目にした者は、ディッキーが死後もなお、読者を挑発するかのように、不遜な笑みを浮かべていると感じるだろう (Brandhorst; Camden; “James L. Dickey”)。

本論ではまず、広く浸透しているディッキーに関する誤解、特に戦争詩を巡るロバート・ブライ (Robert Bly, 1926-2021) との確執について再検証し、その解消を目指す。次に、彼が公の場で仮面をつけていた目的に焦点を当て、一般大衆を対象とした社会批評的な作品を執筆し、平易な言葉を用いた独自のナラティブ形式の詩を開拓していった過程を考察する。また、作品を広めるために積極的に朗読会を開催していた点にも触れる。さらに、ウディ・ガスリー (Woody Guthrie, 1912-67) などのフォークシンガーの仮面を被りつつ、ビート詩人たちのようなアウトサイダーとしてではなく、インサイダーとして社会の内側から批判を行っ

ていたことを明らかにする。最後に、第三詩集 *Helmets* (1964) に収録された “A Folk Singer of the Thirties” を分析し、これらの要素がどのように反映されているかを説明する¹⁾。

1. ブライとの確執と、仮面の目的

まず、ディッキーに対する誤解がどのように生じたのかを整理したい。その発端は、ブライとの確執にある。知り合った当初、二人は良好な関係を築いていた。ブライは自身の雑誌 *The Sixties* にディッキーの作品を掲載し、*Choice* 誌でもディッキーの第二詩集 *Drowning with Others* (1962) を高く評価していた。また、1959 年から 60 年まで、二人はしばしば同じ朗読会にも参加していた (Hart 236-38; Van Ness, *James* 191-92)。

しかし、ベトナム反戦運動が激化する中、二人の関係は急速に悪化した。そのきっかけは、1967 年にブライが執筆したエッセイ “The Collapse of James Dickey” である。当時、「ベトナム戦争に反対するアメリカ作家協会」の共同議長を務めていたブライは、ディッキーの第四詩集 *Buckdancer's Choice* (1965) に収録された詩 “Slave Quarters” (CP 349-54) を批判し、ディッキーが「(黒人奴隷を) 所有するという幻想に耽っている」と指摘した (33-34)。また、第二次大戦中の日本への空爆を題材にした “The Firebombing” (CP 293-301) についても、サディズムの対象が「黒人女性からアジアの民間人に置き換えられている」と述べた (35)。最終的に、ブライは、「これらの詩の主な特徴は精神的な曖昧さだ。(詩の中に) ペルソナは存在しない。新批評的な (非個性を重視する) 視点は全く当てはまらない」と批判した。また、“The Firebombing” についても、「彼が描写する (元米軍の) パイロットは一切の後悔を感じていない。もし彼が以前の爆撃を後悔しているなら、現在の (ベトナムへの) 爆撃にも反対しているはずだ。(中略) ディッキーの態度は標準的な中産階級と見分けがつかない」と非難した (37-38)。

こうしたブライの批判に対して、ディッキーは自ら“The Firebombing”の主題を説明し、反論していく。彼は次のように述べている。「彼（語り手）は今では一家の主であり（中略）、ナバーム弾で女性や子供を焼き尽くしたことを思い出し、衝撃を受ける。彼は彼らがどんな気持ちだったのかを考えようとするが、実際には想像できない。なぜなら、彼らは日本人（中略）だからだ。そして何よりも重要なのは、彼が自分の任務の結果を想像できないということだ。なぜなら、その結果を直接目にしていないからである」（*Self* 138）。その上でディッキーは、「この詩は（中略）罪悪感を感じることができないことへの罪悪感を扱っている。（中略）これが“The Firebombing”のテーマだ」と説明している（*Self* 137）。なお、現在では多くの批評家がディッキーの主張の正しさを認めている²。

また、ブライはディッキーの詩に「ペルソナは存在しない」と述べ、詩人と詩の語り手を同一視しているが、これも誤りである。むしろ、ディッキーほど生涯を通じて仮面にこだわった詩人は少ないだろう。次に、「嘘」という観点から、ディッキーと仮面の関係について考察しよう。

ディッキーは、芸術が「嘘」によって成り立つことをたびたび言及している。特に、パブロ・ピカソ（Pablo Picasso, 1881-1973）が1923年に*The Arts* 誌で語った発言に強く影響を受けていた。ディッキーは次のように述べている。「僕が本当に詩人として成長し始めたのは（中略）嘘の創造的な可能性に気づいたときだった。（中略）崇高な嘘をつくことこそ、創造的な人間がすることだと思う。（中略）ピカソは、芸術とは真実を見せるための嘘であり、真実をそれ以上のものにするものだ、と言ったことがある。これこそがまさに（中略）詩人に与えられた至高の特権なのだ」（*Self* 32）。

そしてディッキーは、嘘とアイデンティティーの問題を結びつけていく。彼は次のように述べている。「彼（詩人）は真実を伝えるのではなく、それを意識的に作り出そうとしている。それによって、詩のビジョンが

読者に実際の出来事よりも強く記憶され、価値を持つように働きかけるのだ。(中略) 同様に、詩人の人格も詩ごとに変化するため、どの詩にも特定の人格を割り当てることはできない。詩人にとって、この変幻自在なプロテウスの特質こそが最も価値ある資産の一つである」(*Sorties* 155-56)。詩人と語り手のアイデンティティーが共に無形であるならば、それを合理的に理解・記述することは不可能であろう。ディッキーが言うように、アイデンティティーは決して「永続的」なものではなく、「瞬間的な自己」に過ぎない (*Sorties* 172-73)。その結果生じるのは、作品ごとに現れる「複数の自己」と、それを語る「異なる声」、つまり仮面である (*Night* 321)³。

これを踏まえれば、ディッキーがブライに反発した理由が分かる。彼はこの時代を「道徳的脅迫の時代」と呼び、自分たちの政治的見解に同意しない者を「ファシスト」と呼ぶ行為に強く反対した (*Night* 330)。ディッキーにとって、詩とは多様なペルソナを通じて読者を作品の世界へ引き寄せ、そこで「人間としてより多くを体験し、何らかの個人的な価値や洞察を得る」という意味で「道徳的」な行為だった。一方、ブライのように作品を曲解し、他者に「行動規範」を押し付ける行為は「反道徳的」に映ったのだ。だから、もしブライが“The Firebombing”に政治的・道徳的なメッセージを期待していたのなら、まずはディッキーのペルソナに対する理解を深める必要があった。そして、語り手を通じて「罪悪感を感じることができないことへの罪悪感」を客観的に描いた姿勢の中に、反戦のメッセージを読み取るべきだったのである。

これ以降、ディッキーはインタビューなどで、一般に「保守的」と見なされる極端な発言を繰り返すようになる。一方、本音の部分は注意深く読まなければ見えてこない形で隠すようになった。これは、ブライによって公然と傷つけられたことへの反発であると同時に、社会に議論を巻き起こそうとする戦術的な試みであったと考えられる。

ブライの発言でもう一つ問題なのは、彼がディッキーの「標準的な中

産階級」の態度を批判したことだ。この批判は一面では正しいが、ディッキーの作品に潜む社会批評的な視点を見逃している点で誤りである。確かに、ディッキーは中産階級の一員として人生の大半を送り、作品も一般市民を主な対象としていた。しかし、重要なのは、ディッキーがその環境の中でいかに批判的な視点を養い、それを作品に反映させていたかである⁴。

これに関しては、ディッキーのビジネスに対する発言に着目するとよく分かる。ディッキーは1955年から61年まで広告業界に勤めていたが、この時の経験を通じて、アメリカ資本主義の本質を見抜く視点を養っていた。彼はカルビン・クーリッジ (Calvin Coolidge, 1872-1933) 大統領の言葉を引用し、次のように述べている。「僕が知っているカルビン・クーリッジの言葉は (中略) 『アメリカのビジネスはビジネスだ』というものだ。この言葉は正しい。ビジネスの世界で働いたことがない人は、自分の国 (中略) の価値観、ストレス、フラストレーション、報酬の仕組みを実際には理解できていない。そういう人は、この国の本流から外れているんだ。僕は6年間ビジネスの世界で働いたことを誇りに思っているし、それを言い訳するつもりもない」(Voiced 204-05)⁵。つまり、ここでディッキーは、ブライやビート詩人たちのようなアウトサイダーではなく、インサイダーとしてアメリカの現実を捉える決意を語っているのである。

当然、こうしたディッキーの姿勢は、彼の内面にアメリカに対する両義的な感情を抱かせることになる。ここで、誤解を招きやすいディッキーの発言を二つ取り上げてみたい。ディッキーは次のように述べている。「アメリカは成功している。(中略) 重要なのは、金融資本主義、大量生産、重工業が我々にもたらした繁栄であり、それを他の誰もが望んでいるということだ。(中略) 我々はこの現実と共に生き、改善できるところは改善しなければならないが、資本主義という基本的な事実は、それによって利益を得てきたアメリカ人、あるいはこれから利益を得よ

うとするアメリカ人がいる限り、続いていくだろう」(*Sorties* 80-81)。「誰もが」は極論かもしれない。しかしよく読めば、ディッキーは資本主義を手放して肯定しているわけではなく、むしろその現実を諦念とともに見つめているのがわかる。さらに、ディッキーは次のようにも述べている。「資本主義はおそらく利己主義を促進するだろうが、利己主義自体は多くの利益をもたらす。重要なのは、利己主義を排除することではなく（中略）、それが大規模な破壊に繋がるのを防ぐことだ。つまり、物質的な利益だけでなく、他の方法でも利益を生むようなチャンネルに変える必要がある」(*Sorties* 81-82)。この発言も安直な資本主義の是認に見えるかもしれない。しかし、ここで指す「他の方法」とは、ディッキーにとっては詩を書くことであり、それを通してアメリカ社会の欺瞞を暴露することを意味している。次にその具体例を見ていこう。

そもそも、ディッキーは大衆を対象にした詩で何を目指しているのだろうか。それは、詩を通じて人間の本質的な業をあぶり出し、中流社会に毒された読者からその偽善的な仮面を剥ぎ取ることである。ディッキーは次のように述べている。「すべての人間は自分の中に多種多様な人格を抱えている。誰の中にも、聖人、殺人者、変質者、怪物、良き夫（中略）、家族を養う者、ビジネスマン（中略）が矛盾し合いながらも同居している。（中略）もしこれらの自己が矛盾しているなら、ウォルト・ホイットマンのように『ぼくが矛盾しているのかい／それならおおいに結構、ぼくはたっぷり矛盾してやる／だってぼくは大きくて、中身がどっさり詰まっているんだ』と言えればいい。（中略）自分の中には多くの異なる人格が存在し、それぞれが声を持っている。そして、これらの異なる声を聞くことが、とても刺激的なことなのだ」(*Voiced* 24-25)。

ディッキーは、上記の考えを基に詩作を展開している。その代表例が *Buckdancer's Choice* に収録された“The Fiend”（CP 334-37）である。この詩は、普段は「会計士」として働く主人公が突然「悪鬼」のような欲望に駆られ、アパートに住む女性の裸を覗き見する様子を描いている。

この詩に関して、ディッキーは次のように述べている。「女性の理想化は男性に固有のものだと思う。(中略) 女性が手の届かない愛の対象になるとき、彼女は神話的な性質を帯びる。この原理は、広告や *Playboy* 誌のような媒体で販売手段として利用されているのがわかる。ほぼすべての映画にはこの要素が含まれている (中略)。何千もの小説がこの原理を取り入れている (中略)。しかし、この原理を最もよく理解しているのは (中略) 覗き見する者だ。すべての男性には、少なからず覗き見の素質がある」(*Self* 153)。さらに、ディッキーは次のように述べている。「アメリカの特徴の一つは (中略)、皆が聖人であることを期待されているということだ。(中略) (皆が) 仮面をかぶり続けなければならない。それは間違いだ。なぜなら (中略) 誰もそれを完璧にやり遂げることなどできないからだ」(*Night* 104-05)。こうしてディッキーは、普通の人間が抱える欲望を露悪的に提示することで、中流文化のメディアに浸って鈍麻してしまった読者の感覚に揺さぶりをかけ、その偽善的な仮面を剥ぎ取ろうとする。そして、ディッキーは、このように本質的な自己に立ち返ることを、「最も真実で本能的な自己が否定されている」状態からの「解放」と呼ぶのだ (*Night* 104-05) ⁶。ここには、ブライが求めるような直接的かつ政治的な行動は見られない。だが、ディッキーは社会の内部にしながら、確かに現実を厳しく見つめている。こうした視点は、必ずしもアウトサイダー的な立場からのみ示されるものではないのだ。

2. ディッキーとポエトリー・リーディング、フォークシンガーの仮面

ここで一旦ブライとの議論から離れ、ディッキーが行った朗読会の意義について考察する。彼は1963年から約10年にわたり、朗読会を精力的に開催し、詩を一般大衆に届けることに務めた。後に自ら“*Barnstorming for Poetry*”と名付けたこの活動は、1962年にリード大学で教鞭を取った際に得た経験が大きな影響を与えている。当時、彼は西海岸で学生や政治活動家、そしてフォークシンガーたちと接し、その刺激的な

環境に大きな感銘を受けた (*Night* 350-51)。ディッキー自身もその「探求、冒険の感覚、知的な興奮の感覚は息をのむほどだった！」と述べている (*Night* 346-47)。

翌年からディッキーは、大学生や一般市民を対象とした朗読会を開催した。彼の南部訛りの力強い声、飾らない態度、そしてカリスマ性は多くの観客を魅了し、普段詩に馴染みのない人々にも強烈な印象を与えた(勿論、こうした環境を事前に準備したのはビート詩人たちの功績であった)。ディッキー自身、この時の経験を次のように述べている。「それ(朗読会)は(中略)僕の詩作や、それに献身的に取り組んでいる人々に何らかの利益をもたらしてくれる。つまり、詩についての話題が広まり、他の詩人の作品も読まれるようになり、大学での朗読料も上がるというわけだ。僕は、自分と同世代のアメリカ詩人たちが安く買い叩かれる(中略)状況を見過ごすつもりはない！」(*Night* 273)。金銭の話題を持ち出すあたりがいかにもディッキーらしいが、この発言からは、詩を大衆に届けることへの情熱と、詩人として経済的に独立し、創作に専念することへの強い願望が見て取れる。

さらに、彼が朗読会で“*Adultery*” (*CP* 362-63) や“*The Sheep Child*” (*CP* 371-72) といった挑発的な詩を朗読していた事実も興味深い。前者は男女の不倫を、後者は人間と羊の交配によって生まれた子供を描いており、特に“*The Sheep Child*”では、人間と自然の交感という、ディッキーの生涯にわたる重要なテーマが扱われている。この詩は一部の聴衆から強い反感を招いたが、ディッキーは批判を恐れず、タブーに挑み続けた (*Bowers, James* 13-14)。先の“*The Fiend*”と同様、こうした挑戦は、聴衆に人間の本質や自然との深い結びつきを問いかけるための重要な手段だったのである。

一方で見逃せないのは、この朗読会への参加がディッキーの作風に大きな変化をもたらしたことである。戦後、復員したディッキーは、ヴァンダービルト大学と同大学院で学び、T・S・エリオット (T. S. Eliot,

1888-1965) や新批評の影響を強く受けた。特に、第一詩集 *Into the Stone* や第二詩集 *Drowning with Others* では、難解なイメージで非個人的な定型詩を書くという点にその影響が顕著に現れている。

だが、ディッキーは次第に新批評に対して徹底的な批判を展開し、自由詩へと移行していく⁷。その理由について、ディッキーは次のように述べている。「僕らは（中略）詩人である時と、詩と関わっていない時の自分との間にあった個人的な親密さを完全に失ってしまった。詩人でない時の自分、つまり、食事をし、道を歩き、書類に記入し、税金を支払い（中略）、他の誰とも同じようにして生きている自分との間にある親密さだ」（*Suspect* 9-10）。さらに、ディッキーは「詩と詩的な行は、特殊効果に頼り過ぎているように思う。（中略）詩そのものが極端な人工性の時代に突入してしまった。だからこそ、人々は詩を読まなくなってしまったのかもしれない（中略）。僕たちに必要なのは、極端なシンプルさを持つ詩だ」（“Journals,” *Sorties* 106）と述べている。その後、ディッキーは定型詩を放棄し、ホイットマン（Walt Whitman, 1819-92）やウィリアム・カーロス・ウィリアムズ（William Carlos Williams, 1883-1963）の影響を受けつつ、口語的な表現やリズムを取り入れたスタイルへと転じていった⁸。

そして、この時期にディッキーが最も発展させたのが、ナラティブ形式の詩である。朗読会で一般市民と接する機会が増えたこと、そして南部文学の伝統を吸収したことが、その原動力となった。ディッキーは次のように述べている。「彼ら（南部人）は物語や逸話を語るのが大好きなんだ。ほとんどの南部文学は、まさにフロントポーチから生まれる。（中略）南部の作家を見てみるといい——ウィリアム・フォークナー、ユードラ・ウェルティ、フラナリー・オコナー、アースキン・コールドウェル、そしてマーク・トウェインでさえも——彼らは皆、基本的に物語を語る者、話の名手だ。そして詩人たちも同じなのだ」（*Voiced* 164）。また、ディッキーはこうも述べている。「物語に関して言えば、

人間（中略）という生き物には、洞窟時代から続く何かがあるように思う。（中略）人間は、物語が与えられると『次に何が起こるのか』という欲求を抱く生き物なのだ。しかし、僕の世代やその前後の世代の詩人たちは、小説や散文に多くの領域を譲り渡してしまった。彼らは（中略）抒情詩的な高揚感や魂の純粹な叫びに氣を取られ過ぎた結果、ナラティブの大きな流れを見落としてしまったのだ。（中略）僕は、この失われた領域を少しでも取り戻したいと考えている」（*Voiced* 170）。こうしてディッキーは、朗読会を通じて、観客に伝わりやすいナラティブ形式の詩を積極的に書き始めたのである。

さらに見逃せないのは、この時期からディッキーがガスリーなどのフォークシンガーの「仮面」を被り始めたという事実である。息子クリストファーは、1963年から4年間、家族で朗読会のために移動していた時期を振り返り、「ぼくたちは（中略）アメリカを東から西へと4回横断した。まさにウディ・ガスリーが歌ったように、この土地は自分たちのものだと感じたんだ」と、ガスリーの“*This Land Is Your Land*”の歌詞をなぞって述べている（*Summer* 120）。また、ディッキー自身も、ガスリーについて、「彼は本物の天才だ。“*This Land Is Your Land*”は国歌になるべきだと思う。それは“*Star-Spangled Banner*”のようなものよりも、はるかに大衆に訴えかける力がある」（*Night* 195-96）と語っている。このように、ディッキーがガスリーの「大衆」性と、物語性の高い、シンブルでありながらも奥深い表現に大きな影響を受けていたことは明白である。

その後、ディッキーは朗読の途中や、朗読会後のパーティーでギターを演奏し、観客を楽しませるようになった。クリストファーによると、ディッキーは若者の性の目覚めをユーモアたっぷりに描いた“*Cherrylog Road*”（*CP* 255-58）を「観客を盛り上げる」ために朗読していたという（*Summer* 131-32）¹⁰。また、ディッキーは観客が作品を理解しやすいよう、朗読の前に詩の背景だけでなく、その意味についてもコメントを加えて

いった (Bowers, *James Dickey* 11-12)。ただし、ディッキーの場合、ガスリーのように貧しい民衆に寄り添うのではなく、あくまでも主流社会のインサイダーとして自覚していたことが重要である。次に“A Folk Singer of the Thirties”を分析し、こうしたディッキーの姿勢がどのように表れているかを検証しよう。

3. “A Folk Singer of the Thirties” の作品分析

ここからは、“A Folk Singer of the Thirties” (CP 239-44) の具体的な考察に入る。まず、ディッキー自身のコメントを紹介しよう。彼は次のように述べている。「“A Folk Singer of the Thirties” という作品は、ウッディ・ガスリーの自伝と、パール・アイヴスがゴーストライターに書かせた自伝 *The Wayfaring Stranger* を読んで着想を得た。(中略) 1930 年代、彼らは貨物列車に乗り、不況に苦しむ全米の小さな町で、飯にありつくために歌を歌っていた。その時と、今の豊かな社会で高級マンションに住み、クイズショーでフォーク風のユーモアを披露したり、俳優になったりすることの違いは一体何だろうか。(中略) 確実に何かが失われている。音楽そのものが失われてしまったのだ。(中略) 放浪しながら歌って食いつなぐほうが、本物の民衆の姿により近いのだ」(Voiced 17)。

ディッキーの指摘通り、ガスリーは自伝 *Bound for Glory* (1943) でホーボー時代の体験を綴っているが、ここでは詩に関連する部分だけを簡潔に要約しよう。第 1 章では、語り手が貨物列車に無賃乗車し、ノースダコタ州ビスマークからシカゴへと移動する様子が描かれる。第 2 章から第 12 章では、西部の鉱山や故郷オクラホマ州の石油ブーム、ダスト・ボウルからの避難民の姿などが語られ、第 13 章では商業主義に染まったロサンゼルスへの批判が見られる。第 18 章では、自身の音楽が金儲けに利用されそうになったことに怒り、ニューヨークでのオーディションから退出する場面が描かれ、最後は再び貨物列車に乗り込んでシカゴへ向かう場面で物語が締めくくられる。

バール・アイヴス (Burl Ives, 1909-95) の *Wayfaring Stranger* (1948) も自身のホーボー時代を描いた自伝である。こちらも詩に関連する部分を要約しよう。第4章では、語り手が貨物列車に飛び乗り、大恐慌の中で何百万人もの人々がスूपを求めて列を作る様子が描かれる。第7章では、フランクリン・ルーズベルト (Franklin D. Roosevelt, 1882-1945) 大統領の政策に反対する人々を批判し、フォークシンガーになる決意を固める。ところが、最終章に至ると物語のトーンは急に変わる。語り手はシカゴでミュージカルの主演を務め、開演前に楽屋で「メイクを終え、鏡に映る自分」を満足げに見つめる。そして、舞台上「宝石」のような「詩と音楽」を歌い物語は幕を閉じる。このように、アイヴスの作品は感傷的な成功物語として締めくくられている。

この両者の落差が、ディッキーの関心を引いたのだろう。もちろん、ディッキーはアイヴスの姿勢に当時のフォーク・リバイバルの衰退を重ねて見ていたはずである。よく知られているように、*Helmets* が出版された翌年の1965年に、ボブ・ディラン (Bob Dylan, 1941-) がニューポート・フォーク・フェスティバルでエレクトリックギターを使用したことが、このムーブメントの終焉を象徴する出来事となった。この変化の中で、ディッキーは音楽や文化における「何かが失われている」と感じていたに違いない。

次に詩の舞台を説明しよう。中心となる時代は、やはり30年代の大恐慌とダスト・ボウルに見舞われたアメリカである。語り手はホーボーとして無賃乗車し、ビスマークからシカゴへ移動している。彼が乗っている列車は、ノーザン・パシフィック鉄道やシカゴ・パーリントン・アンド・クインシー鉄道であろう。当時、これらの鉄道はビスマークからシカゴなどへ小麦や鉱物資源を輸送し、北部経済を支える重要な役割を果たしていた。詩に登場する「トレッスル橋」は、途中のミズーリ川にかかる鉄道橋を指していると考えられる。もちろん、この地理的な移動がガスリーへのオマージュであることは明白だ。

また、この詩には 30 年代を象徴する重要なキーワードが多数含まれている。たとえば、「油」、「圧倒的な産業力で／流れる川」、「水力」、「石炭層」、「電力」、「橋」などである。これらの言葉は、当時のニューディール政策の一環として推進された TVA（テネシー川流域開発公社）や PWA（公共事業局）による大規模な公共事業と密接に関連している。こうした産業エネルギーは、大恐慌時代にアメリカ経済を支えた重要な基盤であった。詩では、こうした産業社会の力強さが描かれる一方、それに対比する形で労働者階級が直面する困難も浮き彫りにされている。

さらに、「フーヴァーヴィル」、「アルコールクス・アノニマス」（“A. A.”）、「靴屋」も 30 年代を象徴するキーワードである。「フーヴァーヴィル」は、大恐慌期に失業者たちが住んだバラック集落のことで、当時のハーバート・フーヴァー（Herbert Hoover, 1874-1964）大統領による政策への不満を象徴していた。「アルコールクス・アノニマス」は、1935 年に設立されたアルコール依存症からの回復を目指す団体である。大恐慌が直接の設立要因ではないものの、ディッキーは当時の貧困と 1933 年の禁酒法廃止が依存症問題を悪化させたと考えているようだ。最後の「靴屋」は、放浪生活を送るホーボーにとって、靴の修理や持ち込んだ物品の換金ができる生活の拠点として重要な役割を果たしていた。このように、30 年代の社会状況を反映したキーワードが、この詩のテーマや背景を一層豊かにしている¹¹。

ひとつ注意が必要なのは、「クレジットカード」への言及である。これは、他の要素と異なり、30 年代を直接指しているわけではない。クレジットカードの歴史は 1949 年に設立されたダイナースクラブに始まった。第二次世界大戦後、アメリカでは軍需産業が巨大な生産基盤を築き、耐久消費財の生産が急速に拡大していった。その結果、消費が増大し、クレジットカード業界も発展したのである。つまり、アメリカはニューディール政策だけでなく、戦争の勝利を通じて大恐慌を乗り越えたと言える。詩中の「クレジットカード」は、この新しい消費社会の象徴

として詩に登場しているのだ（マンデル 1-7, 11-12, 36-37）。なお、*Helmets* は 1964 年に出版されているため、この詩は 30 年代から 60 年代にかけての約 30 年間を描いていると考えられる。この時代背景と詩の主題の関連については、後に詳しく述べることにする。

次に、詩のスタイルについて簡潔に触れておこう。この詩はナラティブ形式を採用しており、韻律は主に三歩格から四歩格で構成されている。伝統的なバラッドを思わせるが、時折二歩格や六歩格も混じり、押韻はされていない。部分的に弱強格が使われているが、全体的には自由なリズムで展開され、連の行数も固定されていない。一部の 30 年代を象徴するキーワードを除けば語彙は平易であり、構文も複雑ではないため、詩に馴染みのない読者や聴衆にも理解しやすい。こうした柔軟なスタイルが詩全体にリズムを与え、ナラティブの効果を高めている。また、Bowers が指摘するように、「歌いながら作り出される歌」としての特徴も十分に反映されているだろう（“Selling” 130）。

今度は詩の主題を確認してみよう。第 1 連では、1960 年代に「アパートメント」で暮らす語り手が、30 年代にホーボーとして過ごした過去を夢に見始める。その夢は第 10 連まで続き、列車の “Drifting” や “streaming” といった動きに合わせて、現実と幻想が交錯する感覚が広がっていく。第 2 連から第 4 連では、貨物置場で寝ているところを警備員に発見され、殴打されて気絶する。その後、家畜運搬用の車両に手足を「釘付け」にされて、「仕事」を求めて放浪する他の「少年たち」への見せしめにされる。第 5 連では、そうした状態でアメリカ中を巡り、やがて「クリスマスセール」で「安っぽいきらびやかな飾り」に彩られた町に着く。ここでは、先の「釘付け」のイメージによって、語り手がキリストの受難と重ね合わされ、同時に社会の俗物性が批判されている。このような宗教的イメージによる社会批判は、先に描かれた鉄道関係者による迫害とともに、ホーボー・ソングにしばしば見られる典型的なモチーフである¹²。

第6連で、語り手を乗せた列車は別の貨物置場に入り、新たに搬入された家畜とともに再度出発する。重要な個所を引用する。

I learned where the oil lay
Under the fields,
Where the water ran
With the most industrial power,
Where the best corn would grow
And what manure to use
On any field that I saw.
If riches were there,
Whatever it was would light up
Like a bonfire seen through an eyelid
And begin to be words
That would go with the sound of the rails.
Ghostly bridges sprang up across rivers,
Mills towered where they would be,
Slums tottered, and buildings longed
To bear up their offices.

ここで語り手は、資本主義の象徴を次々と目にすることになる。たとえば、「野原の下に眠る石油」や、「圧倒的な工業の力」、つまりダムで制御された川が示されている。その後、「橋」、「工場」、「スラム街」、「ビル」、「オフィス」といった資本主義社会の象徴的な構造物が次々と目の前を過ぎていく。語り手は目を瞑る。だが、その工業の明かりは「篝火」のように心に焼き付き、そのイメージが「言葉」となって列車のリズムに乗って響き渡る。この「篝火」というイメージは、『出エジプト記』3章2節の「燃える柴」（神の臨在と力の象徴）や、『ヨハネの福音書』1章1節から5節の「言は神であった」、「この命は人の光であった」という言葉を暗示している。これにより、資本主義が神に取って代わり、「光」

として、また「言葉」として世界を支配していることが示唆されている。

第6連から第8連にかけて、語り手は純真な「孤児」たちによって救出され、「フーヴァーヴィル」に連れて行かれる。そこで、「亜鉛メッキのトタン」でできた粗末な「礼拝堂」に集まった人々に向け、これまでの苦難や「大草原の埃」、すなわちダスト・ボウルについて語る。そして、「農場や工業地帯が／生産のために燃え続けていた」と述べ、過剰な耕作がもたらした荒廃を資本主義の弊害として強調する。なお、ここで描かれる「フーヴァーヴィル」の情景や資本主義への批判には、ガスリーやアイヴスに加え、ジョン・スタインベック（John Steinbeck, 1902-68）の *The Grapes of Wrath*（1939年）からの影響も色濃く見られる¹³。

第8連と第9連で、詩の調子が急変する。引用してみよう。

One night, I addressed the A.A.,
 Almost singing,
 And in the fiery,
 Unconsummated desire

For drink that rose around me
 From those mild-mannered men,
 I mentioned a place for a shoe store
 That I had seen near the yards
 As a blackened hulk with potential.
 A man rose up,
 Took a drink from a secret bottle,
 And hurried out of the room.
 A year later to the day
 He knelt at my feet
 In a silver suit of raw silk.

今、語り手は「アルコールイクス・アノニマス」の集会で、依存症に苦

しむ人々に向けて演説している。だが、彼の資本主義批判とは裏腹に、金銭欲に駆られた男が登場する。男は語り手から「靴屋にうってつけの場所」の情報を得るとすぐにその場を去り、一年後に成功者として戻ってくる。この男が「生糸で織った銀色のスーツ」をまとい、語り手の足元に跪くシーンは、資本主義が神聖視され、欲望が崇拜の対象になる様を象徴的に描いている。この予想外の展開に戸惑いながらも、語り手は第10連で「水力」、「炭層」、「電力」、「橋」といった現代文明の象徴を列挙し、批判を続ける。しかし、彼の話聞いた者たちは反応するどころか、むしろ「所有者」としての欲望をさらに膨らませ、その場を去っていく。ここで語り手は夢から覚める。

第11連から最終連で、語り手は50年代以降の現実と向き合う。彼は教会で結婚式を終えたばかりの若い夫婦を目にし、二人が「クレジットカード」を手にして、戦後の「アメリカン・ライフ」を謳歌している様子を見る。語り手は再び過去を振り返り、「貧しい者たちが金持ちになることはない」と呟く。だが、現実のアメリカが大恐慌を脱し、経済的な発展を遂げたことを思い出し、その言葉が虚偽であることに気づく。かつて語り手は、自分が「病んだ国を死の床から歌い上げた」と信じていたが、今ではその信念も揺らぎ、「どんな論理的な正義も真実を掴むことはできない」と悟って、自己欺瞞と決別する。最後の部分を引用しよう。

In the sealed rooms I think of this,
Recording the nursery songs
In a checkered and tailored shirt,

As a guest on TV shows
And in my apartment now:
This is all a thing I began
To believe, to change, and to sell

When I opened my mouth to the rich.

今、語り手は豪華なアパートメントで裕福な生活を送り、テレビ番組にも出演するほどの成功を収めている。「オーダーメイドしたチェック柄のシャツ」を見つめながら、かつて商業主義を批判していた自分が、今ではその志を「変え」、ホーボー時代の経験をもとにした歌を「裕福な人々」に「売っている」現実気づく。彼は資本主義や社会に対する批判精神を持ち続けつつ、そのシステムに組み込まれてしまった自分を直視し、葛藤を抱える芸術家としての苦悩を告白している。「密室」という表現は、レコーディングルームを指すと同時に、そうした彼の孤独感や閉塞感を象徴しているだろう。

注目すべきは、この詩が第二次世界大戦の経験を前面に押し出した詩集 *Helmets* に収められている点である。ディッキーは、大恐慌の悲惨さを嘆きつつ、戦後の繁栄と裕福な生活を享受するという、対照的な二つの側面を描写している。彼がガスリーやアイヴスの伝記に言及し、フォークシンガーという仮面を選んだのも、この複雑な両面を表現するためだろう。ディッキーにとって、ガスリーのように最後まで弱者の側に立ち続ける姿と、アイヴスが変節の果てに商業主義の中で成功を語る姿の両方が、アメリカの矛盾に満ちた真実を映し出している。そして、この二重性が、詩全体に宿るアイロニーに深みを与えているのだ。

このような二重性は、詩全体を通じて明確に表現されている。詩の冒頭から、語り手の「アパートメント」を軸に、50年代から60年代の裕福な生活と、30年代の貧困の中で理想に燃えていた時の記憶が絶えず重なり合っている。また、30年代の「亜鉛メッキのトタンでできた礼拝堂」と、戦後の電化されて「煌めく尖塔」、そして30年代の若者たちが「アメリカ人としての生活」(“Their American lives”)を求めて放浪する姿と、戦後の夫婦が「アメリカン・ライフ」(“Their American lives”)を謳歌する姿が、同じイメージや表現によって対比されている。第9連から第10連で語り手が労働者たちに「真珠で象嵌された」豪華なギタ

ーを弾くシーンも、この過去と現在の二重性を象徴している。もちろん、こうした対比による軋轢がもたらすのは悪夢である。

この葛藤こそ、この詩の核心であろう。語り手は、詩のほぼ中心に位置する第6連で、「ぼくは何年も宙づりになっていた／そしてついには、痛みを通じてすべてを知ったんだ。／大地のこと／利益と商業の未来／そして謙虚さのことも／謙虚さがなければ、どれも意味はなかったんだ」と述べている。最終連で、語り手は商業主義に魂を売ったことを懺悔し、今も「宙づり」のまま苦悩していることを告白するが、これはまさに「謙虚さ」を示すための行為である。

第12連に登場する「子守唄」(“the nursery songs”)は、ガスリーの“Hobo’s Lullaby”への応答と言えるだろう。ガスリーは辛い生活を送るホーボーに天国での救済を歌うが、ディッキーの「子守唄」は慰めを一切提供しない。それどころか、アメリカの繁栄や語り手の人生を児戯として皮肉り、不眠による悪夢を通じて厳しい現実を鋭く突きつけている。

ディッキーはかつて、ガスリーの“This Land Is Your Land”をアメリカの「国歌」に相応しいと称賛していた。しかし、この詩では、その最終行「その裏側のほうこそ、ぼくとあなたのためにある」を反転させている。ガスリーがアウトサイダーの立場から民衆の理想郷を歌うのとは対照的に、ディッキーはインサイダーとしてアメリカの矛盾を嘆くのだ¹⁴。

最後にこの詩のもう一つの魅力に触れておきたい。それは、ディッキーが語り手に軽妙さを持たせ、読者を楽しませている点である。たとえば、第2連では、語り手が「横にはギターが置いてあって／大きな石の下でめいっぱい胸を張っていた」と述べ、砂利に押しつぶされながらもフォークシンガーとしての情熱を失わない様子を剽軽に描いている。また、第4連では、鉄道関係者に折られた「歯」を「トウモロコシのように吐き出した」と表現し、不潔なホーボーの歯をコミカルに描写して笑いを誘っている。こうした要素を取り入れることで、ディッキーは重いテーマとのバランスを取り、読者の共感を引き出している。このように

語り手がユーモアを通じて闘う姿は、もちろんディッキー自身の内面の投影でもあろう。厳しい現実の中でも軽妙さを忘れないディッキーは、一流の詩人であると同時に、仮面を巧みに使いこなすエンターテイナーでもあったのだ¹⁵。

4. 終わりに

本論では、ディッキーに対する従来の誤解を「仮面」というキーワードを通して解明し、彼が大衆を意識しながら独自のナラティブ形式を確立していった過程を明らかにした。また、社会批判の場として朗読会を活用し、インサイダーの立場から大衆に直接語りかけたことについても考察した。最後に、“A Folk Singer of the Thirties”の分析を通して、これらの特徴が集約されていることを確認した。

今後の研究では、ディッキーとマスメディア、特に映画や音楽との関係をさらに掘り下げ、彼がこれらのメディアをどのように詩に取り入れ、現代社会との対話を試みたか、その過程を詳しく考察していきたい。

参考文献

- “Alcoholics Anonymous Founded.” *History*, 2024, <https://www.history.com/this-day-in-history/alcoholics-anonymous-founded>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Anderson, Nels. *The Hobo: The Sociology of the Homeless Man*. Kindle ed., Barakaldo Books, 2020.
- Applewhite, James. “Structures of Transcendence: Dickey’s Male Self and the Other.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 66-75.
- Bartlett, Lee, and Hugh Witemeyer. “Ezra Pound and James Dickey: A Correspondence and a Kinship.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 129-48.
- Baughman, Ronald. “James Dickey’s War Poetry: A ‘Saved, Shaken Life’.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 118-28.
- . *Understanding James Dickey*. U of South Carolina P, 1985.

- , editor. *The Voiced Connections of James Dickey: Interviews and Conversations*. U of South Carolina P, 1989.
- Bennett, Ross. "'The Firebombing': A Reappraisal." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 90-104.
- Berry, Wendell. "James Dickey's New Book." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 31-32.
- Blair, John. "'Breeding Lilacs Out of the Dead Land': James Dickey's *Alnilam* and *Deliverance*." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 210-19.
- Bloom, Harold. "Introduction." *James Dickey*, edited by Harold Bloom, Chelsea House Publishers, 1987, pp. 1-16.
- , editor. *James Dickey*. Chelsea House Publishers, 1987.
- Bly, Robert. "The Collapse of James Dickey." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 33-38.
- . *Collected Poems*. W. W. Norton, 2018.
- Botkin, B. A., and Alvin F. Harlow, editors. *A Treasury of Railroad Folklore*. Kindle ed., Head of Zeus, 2015.
- Bound for Glory*. Directed by Hal Ashby, United Artists, 1976.
- Bowers, Neal. *James Dickey: The Poet as Pitchman*. U of Missouri P, 1985.
- . "Selling the Poem." *James Dickey*, edited by Harold Bloom, Chelsea House Publishers, 1987, pp. 115-37.
- Brandhorst, Craig. "Big Man on Campus." *University of South Carolina*, 2024, https://sc.edu/uofsc/posts/2018/10/james_dickey_big_man_on_campus.php. Accessed 1 Apr. 2024.
- Briggs, Ward. "James Dickey and Georgia." *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/23268220>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Brucoli, Matthew J., editor. *Conversations with Writers: 001*. Gale, 1977.
- "Burl Ives—Blue Tail Fly (Jimmy Crack Corn) Live 1964." *YouTube*, uploaded by skizeegee, 25 Oct. 2012, <https://www.youtube.com/watch?v=Rr4jeaaVGCA>.
- Butterworth, Keen. "The Religious Impulse and Dickey's 'The Owl King'." *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 129-38.
- . "The Savage Mind: James Dickey's *Deliverance*." *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/20078154>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Calhoun, Richard J. "'His Reason Argues With His Invention'—James Dickey's *Self-Interviews* and *The Eye-Beaters*." *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 203-12.
- . "Preface." *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. xi-xiv.
- , and Robert W. Hill. *James Dickey*. Twayne Publishers, 1983.

- , editor. *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*. Everett Edwards, 1973.
- Calhoun, Richard James. “Whatever Happened to the Poet-Critic?” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 119-33.
- Camden, Tom. “James Dickey, Masked and Unmasked.” *The Columns*, 2024, <https://columns.wlu.edu/james-dickey-masked-and-unmasked/>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Carroll, Paul. “James Dickey as Critic.” *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 39-43.
- “Chicago, Burlington and Quincy Railroad.” *Wikipedia*, 2024, https://en.wikipedia.org/wiki/Chicago,_Burlington_and_Quincy_Railroad. Accessed 1 Apr. 2024.
- Clabough, Casey. “Writing One’s Immortality: Dickey’s Reputation as a Southern Writer.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 25-34.
- Clabough, Casey Howard. *Elements: The Novels of James Dickey*. Mercer UP, 2002.
- Cohen, Ronald D. *Rainbow Quest: The Folk Music Revival and American Society, 1940-1970*. U of Massachusetts P, 2002.
- Conroy, Pat. “Foreword.” *Classes on Modern Poets and the Art of Poetry*, by James Dickey, edited Donald J. Greiner, U of South Carolina P, 2004, pp. xi-xvi.
- . “‘Wild to Be Wreckage Forever’: Dickey’s Influence Reputation.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 13-24.
- Corrington, John William. “James Dickey’s Poems: 1957-1967: A Personal Appraisal.” *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/41396419>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Davison, Peter. “The Difficulties of Being Major: The Poetry of Robert Lowell and James Dickey.” *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 44-50.
- . “The Great Grassy World from Both Sides: The Poetry of Robert Lowell and James Dickey.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 35-51.
- Deliverance*. Directed by John Boorman, Warner Bros., 1972.
- Dickey, Christopher. *Summer of Deliverance: A Memoir of Father and Son*. Simon and Schuster, 1998.
- Dickey, James. *Alnilam*. Pinnacle Books, 1987.
- . “Arts and Letters: In the Presence of Anthologies.” *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/27538735>. Accessed 1 Apr. 2024.
- . *Babel to Byzantium: Poets and Poetry Now*. Octagon Books, 1968.
- . *Bronwen, the Traw, and the Shape-Shifter: A Poem in Four Parts*. Harcourt Brace Jovanovich, 1986.

- . *The Central Motion: Poems, 1968-1979*. Wesleyan UP, 1983.
- . *Classes on Modern Poets and the Art of Poetry*. U of South Carolina P, 2004.
- . *The Complete Poems of James Dickey*. U of South Carolina P, 2013.
- . “A Conversation with James Dickey.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 1-33.
- . *Crux: The Letters of James Dickey*. Alfred A. Knopf, 1999.
- . *The Early Motion: Drowning with Others and Helmets*. Wesleyan UP, 1981.
- . “The Energized Man.” *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 163-65.
- . *God’s Images: The Bible: A New Vision*. A Crossroad Book, 1978.
- . “How to Enjoy Poetry.” *Ms. Boyd’s Class*, 2024, https://hcmsboyd.weebly.com/uploads/1/3/1/5/13158363/how_to_enjoy_poetry_packet.pdf. Accessed 1 Apr. 2024.
- . “The Imagination as Glory.” *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 166-73.
- . “An Interview with James Dickey.” *Gale Literature Resource Center*, 2024, <https://go.gale.com/ps/dispatchBasicSearch.do?userGroupName=anon%7E8437582e&prodId=LitRC>. Accessed 1 Apr. 2024.
- . “An Interview with James Dickey.” *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/1207403>. Accessed 1 Apr. 2024.
- . “An Interview with James Dickey.” *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/1208582>. Accessed 1 Apr. 2024.
- . “Introduction.” *The Call of the Wild, White Fang, and Other Stories*, by Jack London, Penguin Books, 1981, pp. 7-16.
- . *The James Dickey Reader*. Simon and Schuster, 1999.
- . *James Dickey: The Selected Poems*. Wesleyan UP, 1998.
- . “Lightnings or Visuals.” *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 233-44.
- . *The One Voice of James Dickey: His Letters and Life, 1942-1969*. U of Missouri P, 2003.
- . *The One Voice of James Dickey: His Letters and Life, 1970-1997*. U of Missouri P, 2005.
- . *Poems 1957-1967*. Collier Books, 1967.
- . *Self-Interviews*. Louisiana State UP, 1970.
- . “A Sense of Flight: An Interview with James Dickey.” *mirabile dictu*, 2024, <https://mirabiledictu.org/2013/06/20/icarus-and-ulterior-motives-an-interview-with-james-dickey-1987/>. Accessed 1 Apr. 2024.
- . *Sorties*. Louisiana State UP, 1971.
- . *Striking In: The Early Notebooks of James Dickey*. U of Missouri P, 1996.
- . *The Suspect in Poetry*. Sixties Press, 1964.
- . *The Whole Motion: Collected Poems 1945-1992*. Wesleyan UP, 1992.
- , and Marie Angel. *Tucky The Hunter*. Crown Publishers, 1978.

- , and William A. Bake. *Wayfarer: A Voice from the Southern Mountains*. Oxmoor House, 1988.
- Duncan, Robert. “Oriented by Instinct by Stars.” *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 17-19.
- Elledge, Jim. “James Dickey between Wars: An ‘Appreciation’ of the *Gadfly* Poems.” *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 78-89.
- Emperor of the North*. Directed by Robert Aldrich, 20th Century Fox, 1973.
- Fuente, Patricia De La. *James Dickey: Splintered Sunlight, Interview, Essays, and Bibliography*. Pan American U, 1979.
- Glancy, Eileen. *James Dickey: The Critic as Poet: An Annotated Bibliography with an Introduction Essay*. Whitston Publishing Company, 1971.
- Goldensohn, Lorrie. “The War Poetry of James Dickey.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 151-61.
- Green, Archie, et al., editors. *The Big Red Songbook*. PM Press, 2007.
- Greiner, Donald J. “Introduction.” *Classes on Modern Poets and the Art of Poetry*, by James Dickey, edited Donald J. Greiner, U of South Carolina P, 2004, pp. xix-xxxii.
- Gunn, Thom. “Things, Voices, Minds.” “*Struggling for Wings*”: *The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 13-15.
- Guthrie, Woody. *Bound for Glory*. Kindle ed., Plume, 1983.
- . “Hobo’s Lullaby.” *Official Woody Guthrie Website*, 2024, https://www.woodyguthrie.org/Lyrics/Hobos_Lullaby.htm. Accessed 1 Apr. 2024.
- . “This Land Is Your Land.” *Official Woody Guthrie Website*, 2024, https://www.woodyguthrie.org/Lyrics/This_Land.htm. Accessed 1 Apr. 2024.
- Hacha, Barbara. *Mulligan Stew: Stories and Traditions of American Hobos*. Kindle ed., Media-Mix Productions, 2013.
- Harmon, William. “Herself as the Environment.” “*Struggling for Wings*”: *The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 44-48.
- Hart, Henry. *James Dickey: The World as a Lie*. Picador, 2001.
- Hathcock, Nelson. “The Predator, the Prey, and the Poet in Dickey’s ‘Heaven of Animals’.” *James Dickey*, edited by Harold Bloom, Chelsea House Publishers, 1987, pp. 139-47.
- Heilbrun, Carolyn. “The Masculine Wilderness of the American Novel.” *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 59-60.
- Hill, Robert W. “James Dickey: A Checklist.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 213-28.
- . “James Dickey: Comic Poet.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 143-55.
- “History of A.A.” *Alcoholics Anonymous*, 2024, <https://www.aa.org/aa-history>. Accessed 1 Apr. 2024.

- Hodge, Marion. "James Dickey's Natural Heaven." *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/3200521>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Howard, Richard. "'We Never Can Really Tell Whether Nature Condemns Us or Loves Us'." *James Dickey*, edited by Harold Bloom, Chelsea House Publishers, 1987, pp. 37-61.
- Hummel, Maria. "James Dickey: 'The Sheep Child'." *Poetry Foundation*, 2024, <https://www.poetryfoundation.org/articles/68914/james-dickey-the-sheep-child>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Ives, Burl. *Wayfaring Stranger*. Kindle ed., Papamoa Press, 2017.
- "James Dickey and Howard Nemerov in Conversation (1980)." *YouTube*, uploaded by Bryan Helton, 9 Aug. 2024, <https://www.youtube.com/watch?v=eO9JBuC7zlk>.
- "James Dickey and Kurt Vonnegut in Conversation." *YouTube*, uploaded by Bryan Helton, 9 Aug. 2024, <https://www.youtube.com/watch?v=rNW0NV7Gots&t=16s>.
- "James Dickey Interview--The Writers Workshop @ the University of South Carolina." *YouTube*, uploaded by Bryan Helton, 29 Apr. 2018, <https://www.youtube.com/watch?v=pQDcjkmYWuQ>.
- "James Dickey Poetry Reading @ Coolidge Auditorium, Nov 8, 1965." *YouTube*, uploaded by Bryan Helton, 17 Oct. 2019, <https://www.youtube.com/watch?v=GZsgFrsvtyE>.
- "James L. Dickey." *Poetry Foundation*, 2024, <https://www.poetryfoundation.org/poets/james-l-dickey>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Jameson, Frederic. "The Great American Hunter, or, Ideological Content in the Novel." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 52-58.
- Jones, Malcolm, Jr. "When a Predator Is the Prey." *"Struggling for Wings": The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 60-61.
- Keesey, Douglas. "James Dickey and the Macho Persona." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 201-09.
- Kemp, Harry. *Chanteys and Ballads, Sea-Chanteys, Tramp-Ballads and Other Ballads and Poems*. Kindle ed., Baltzell Press, 2013.
- Kerouac, Jack. *The Dharma Bums*. Kindle ed., 2023.
- . *On the Road*. Kindle ed., 2021.
- Kirschten, Robert. *Approaching Prayer: Ritual and the Shape of Myth in A. R. Ammons and James Dickey*. Louisiana State UP, 1998.
- . "Form and Genre in James Dickey's 'Falling': The Great Goddess Gives Birth to the Earth." *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/3200972>. Accessed 1 Apr. 2024.
- . "Interview with James Dickey." *"Struggling for Wings": The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 65-77.
- . "Interview with John Gallogly and Bridget Hanley, Director and Actress for James Dickey's 'May Day Sermon'." *"Struggling for Wings": The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 78-89.
- . "Introduction." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 1-25.

- . “Introduction.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 1-9.
- . *James Dickey and the Gentle Ecstasy of Earth*. Louisiana State UP, 1988.
- . “The Momentum of Word-Magic in James Dickey’s *Eye-Beaters, Blood, Victory, Madness, Buckhead and Mercy*.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 149-75.
- , editor. *Critical Essays on James Dickey*. G. K. Hall, 1994.
- , editor. *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*. U of South Carolina P, 1997.
- Larrissy, Edward. “Gender, Being, and Artifice in James Dickey’s *Puella*.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 228-38.
- “LC Performance. Interview. 1968-05-24, Three American Poets--Miles, Olson, Dickey.” *YouTube*, uploaded by Library of Congress, 27 Sep. 2018, <https://www.youtube.com/watch?v=ovqMxQbAZJs>.
- Lensing, George. “James Dickey and the Movements of Imagination.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 157-75.
- Lieberman, Laurence. *The Achievement of James Dickey*. Scott, Foresman, 1967.
- . *Clairvoyant with Hunger: Essays on James Dickey, James Wright, W. S. Merwin, etc.* Texas Review Press, 2016.
- . “Erotic Pantheism in James Dickey’s ‘Madness’.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 204-15.
- . “James Dickey: The Deepening of Being.” *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 108-28.
- . “Notes on James Dickey’s Style.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 195-201.
- . “The Worldly Mystic.” *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 65-76.
- Lightweis-Goff, Jennie. “‘How Willing to Let Anything Be Done’: James Dickey’s Feminist Praxis.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 239-51.
- Lomax, Alan, and E. Posten, editors. *The Penguin Book of American Folk Songs*. Penguin Books, 1965.
- Lomax, John A., and Alan Lomax. *American Ballads and Folk Songs*. Macmillan, 1934.
- London, Jack. *The Call of the Wild, White Fang, and Other Stories*. Penguin Books, 1981.
- . *The Road: Annotated*. Kindle ed., 2022.
- “Lord Let Me Die But Not Die Out A James Dickey Documentary.” *YouTube*, uploaded by Bryan Helton, 28 Dec. 2019, https://www.youtube.com/watch?v=U_wDtMosdJs&t=276s.
- Madden, Ed. “The Bugging Hillbilly and the Buddy Movie: Male Sexuality in *Deliverance*.”

- The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 195-209.
- "Mandan and Bismarck Share a Long History with BNSF." *BNSF Railway*, <https://www.bnsf.com/news-media/railtalk/heritage/mandan-bismarck.html>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Martz, William J. "A Note on Meaningless Being in 'Cherrylog Road'." *James Dickey: The Expansive Imagination: A Collection of Critical Essays*, edited by Richard J. Calhoun, Everett Edwards, 1973, pp. 81-84.
- Marx, Leo. *The Machine in the Garden: Technology and the Pastoral Ideal in America*. Oxford UP, 1964.
- McIntyre, Iai, editor. *On the Fly!: Hobo Literature and Songs, 1879-1941*. U of Iowa P, 2003.
- Mehigan, Joshua. "James Dickey." *Poetry Foundation*, 2024, <https://www.poetryfoundation.org/poetrymagazine/articles/70015/james-dickey>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Mills, Ralph J., Jr. "The Poetry of James Dickey." *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 30-42.
- Mizejewski, Linda. "Shamanism toward Confessionalism: James Dickey, Poet." *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 132-42.
- Mullan, Pat. *James Dickey's Poetry: The Religious Dimension*. Kindle ed., Athry House, 2007.
- Nemerov, Howard. "Poems of Darkness and a Specialized Light." *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 11-16.
- "Northern Pacific Railway." *Wikipedia*, 2024, https://en.wikipedia.org/wiki/Northern_Pacific_Railway. Accessed 1 Apr. 2024.
- Oates, Joyce Carol. "Out of Stone, into Flesh: The Imagination of James Dickey 1960-70." *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 64-107.
- Pair, Joyce M. "'Dancing with God': Totemism in Dickey's 'May Day Sermon'." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 135-52.
- Peckham, Joel B., Jr. "James Dickey and the Narrative Mode of Transmission: The Sheep Child's Other Realm." *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/26476860>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Peters, Robert. "The Phenomenon of James Dickey, Currently." *"Struggling for Wings": The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 36-43.
- Picasso, Pablo. "'STATEMENT TO MARIUS DE ZAYAS,' 1923." *Media Center for Art History*, 2024, https://projects.mcah.columbia.edu/arhumanities/websites/picmon/pdf/art_hum_reading_49.pdf. Accessed 1 Apr. 2024.
- Ramsey, Paul. "James Dickey: Meter and Structure." *James Dickey*, edited by Harold Bloom, Chelsea House Publishers, 1987, pp. 63-76.
- Reiss, Barbara, and James Reiss. "Introduction." *Self-Interviews*, by James Dickey, Louisiana

- State UP, 1970, pp. 9-17.
- Roberts, Mark, editor. *James Dickey Review*, vol. 32, Kindle ed., Reinhardt UP, 2016.
- , editor. *James Dickey Review*, vol. 33, Kindle ed., Reinhardt UP, 2017.
- , editor. *James Dickey Review*, vol. 34, Kindle ed., Reinhardt UP, 2018.
- , editor. *James Dickey Review*, vol. 35, Kindle ed., Reinhardt UP, 2020.
- , editor. *James Dickey Review*, vol. 36, Kindle ed., Reinhardt UP, 2020.
- Scott, John Anthony. *The Ballad of America: The History of the United States in Song and Story*. Bantam Books, 1966.
- Smith, Dave. “James Dickey’s Motions.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 241-56.
- . “The Strength of James Dickey.” *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 152-62.
- Smith, Randall. “James Dickey and His Reader: The Movement from Drowning to Deliverance.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 88-104.
- Spears, Monroe. “James Dickey: Southern Visionary as Celestial Navigator.” *“Struggling for Wings”: The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 216-31.
- Spears, Monroe K. “James Dickey as a Southern Visionary.” *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/26436964>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Spencer, Susan A. “James Dickey’s American Cain.” *JSTOR*, 2024, <https://www.jstor.org/stable/44322527>. Accessed 1 Apr. 2024.
- Steinbeck, John. *The Grapes of Wrath: Text and Criticism*. Penguin Books, 1997.
- A Study Guide for James Dickey’s “Deliverance.”* Gale, 2017.
- A Study Guide for James Dickey’s “The Heaven of Animals.”* Kindle ed., Gale, 2016.
- A Study Guide for James Dickey’s “The Hospital Window.”* Kindle ed., Gale, 2016.
- Suarez, Ernest. “Emerson in Vietnam: James Dickey, Robert Bly, and the New Left.” *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 105-22.
- . *James Dickey and the Politics of Canon: Assessing the Savage Ideal*. U of Missouri P, 1993.
- Terrell, Ellen. “When a Quote Is Not (Exactly) a Quote: The Business of America is Business Edition.” *Library of Congress Blogs*, 2024, https://blogs.loc.gov/inside_adams/2019/01/when-a-quote-is-not-exactly-a-quote-the-business-of-america-is-business-edition/. Accessed 1 Apr. 2024.
- Thesing, William B. *Reading, Learning, Teaching James Dickey*. Peter Lang, 2009.
- , and Theda Wrede. “Introduction: From Dust to Deliverance.” *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 1-10.
- , and Theda Wrede, editors. *The Way We Read James Dickey*. U of South Carolina P, 2009.

- Tillinghast, Richard. "James Dickey: *The Whole Motion*." *"Struggling for Wings": The Art of James Dickey*, edited by Robert Kirschten, U of South Carolina P, 1997, pp. 49-57.
- "A tribute to James Dickey at 70." *YouTube*, uploaded by Moving Image Research Collections, 17 Jun. 2024, <https://www.youtube.com/watch?v=6XpNhS8l77s&t=13s>.
- Van Ness, Gordon. *James Dickey: A Literary Life*. Mercer UP, 2022.
- . "James Dickey's Pantheism: Nature and Philosophy in the Last Motion." *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 139-48.
- . *Outbelieving Existence: The Measured Motion of James Dickey*. Camden House, 1992.
- . "To 'Splinter Uncontrollably Whole': Circularity and the Philosophic Subtext in Dickey's *The Eagle's Mile*." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 220-32.
- Walker, Sue Brannan. *The Ecological Poetics of James Dickey: A Study in How Landscape Shapes the Being of Man*. The Edwin Mellen Press, 2013.
- Warren, Robert Penn. "The Enunciation of Universality." *James Dickey*, edited by Harold Bloom, Chelsea House Publishers, 1987, pp. 103-06.
- Weigl, Bruce, and T. R. Hummer. "Introduction." *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*, edited by Bruce Weigl and T. R. Hummer, U of Illinois P, 1984, pp. 1-10.
- , and T. R. Hummer, editors. *The Imagination as Glory: The Poetry of James Dickey*. U of Illinois P, 1984.
- Whitman, Walt. *Walt Whitman: Poetry and Prose*. Library of America, 1996.
- Williams, William Carlos. *The Collected Poems of William Carlos Williams: Volume I, 1909-1939*. New Directions, 1986.
- Wrede, Theda. "Nature and Gender in James Dickey's *Deliverance*: An Ecofeminist Reading." *The Way We Read James Dickey*, edited by William B. Thesing and Theda Wrede, U of South Carolina P, 2009, pp. 177-92.
- Wright, James. "A Shelf of New Poets." *Critical Essays on James Dickey*, edited by Robert Kirschten, G. K. Hall, 1994, pp. 29-30.
- アンダーソン, N. 『ホーボー——ホームレスの人たちの社会学 (上)』. 広田康生訳, ハーベスト社, 1999.
- . 『ホーボー——ホームレスの人たちの社会学 (下)』. 広田康生訳, ハーベスト社, 2000.
- イエイツ, ヤネル. 『この国はきみの国——アメリカの吟遊詩人ウディ・ガスリー』. 矢澤寛訳, かもがわ出版, 1998.
- キング, ステイーヴン他編. 『死んだら飛べる』. 白石朗他訳, 竹書房, 2019.
- ケルアック, ジャック. 『ザ・ダルマ・バムズ』. 中井義幸訳, 講談社, 2007.
- コーエン, バーバラ他編. 『ニューヨーク拝見』. 常盤新平訳, 白水社, 1993.
- ディッキー, ジェイムズ. 『白の海へ』. 高山恵訳, 小学館, 2010.
- . 『救い出される』. 酒本雅之訳, 新潮社, 2016.

- フェイエット, フレデリック. 『ホーボー——アメリカの放浪者たち』. 中山容記, 晶文社, 1988.
- ブライ, ロバート. 『ロバート・ブライ詩集』. 谷川俊太郎他訳, 思潮社, 1993.
- ホイットマン, ウォルト. 『草の葉 (上)』. 酒本雅之訳, 岩波書店, 1998.
- マンデル, ルイス. 『アメリカクレジット産業の歴史』. 根本忠明他訳, 日本経済評論社, 2000.
- ユーチェンコウ, ヘンリエッタ. 『ウディ・ガスリー・ストーリー』. 三井徹訳, プロンズ社, 1973.
- ライト, D・W 編. 『アメリカ現代詩 101 人集』. 沢崎順之助他訳, 思潮社, 1999.
- ロビン, エド. 『わが心のウディ・ガスリー——アメリカ・フォークの源流——』. 矢沢寛訳, 社会思想社, 1986.
- 石弘之. 『名作の中の地球環境史』. 岩波書店, 2011.
- 岡本勝. 『禁酒法 = 「酒のない社会」の実験』. 講談社, 1996.
- 小野清之. 『アメリカ鉄道物語——アメリカ文学再読の旅——』. 研究社出版, 1999.
- 川崎寿彦他. 「現代英米詩合評 (完) ——James Dickey: *Sled Burial, Dream Ceremony*」. 『英語青年』, 第 117 巻, 第 2 号, 1971, pp. 10-16.
- 川本三郎. 「訳者解説」. 『ザ・ロード——アメリカ放浪記』, ジャック・ロンドン著, 川本三郎訳, 筑摩書房, 2024, pp. 264-78.
- 小谷節男. 『アメリカ石油工業の成立』. 関西大学出版部, 2000.
- 酒本雅之. 「訳者あとがき」. 『救い出される』, ジェイムズ・ディッキー著, 酒本雅之訳, 新潮社, 2016, 441-50.
- 新川健三郎. 『ルーズベルト——ニューディールと第二次世界大戦』. 清水書院, 1984.
- 高田美一. 「タガメの (The Water-bug's) ミトンズ (Mittens) —— (二) ——エズラ・パウンドから学び得るもの——」. 『跡見学園女子大学紀要』, 第 17 号, 1984, pp. 113-31.
- 高山恵. 「文庫版訳者あとがき」. 『白の海へ』, ジェイムズ・ディッキー著, 高山恵訳, 小学館, 2010, pp. 344-46.
- 田家康. 『異常気象で読み解く現代史』. 日本経済新聞出版社, 2016.
- 中良子. 「ダスト・ボウル難民のドキュメンタリー表象——『移住農民の母』と『怒りの葡萄』」. 『災害の物語学』, 中良子編, 世界思潮社, 2014, pp. 48-73.
- 中井義幸. 「解説」. 『ザ・ダルマ・バムズ』, ジャック・ケルアック著, 中井義幸訳, 講談社, 2007.
- 林敏彦. 『大恐慌のアメリカ』. 岩波書店, 1988.
- 福田陸太郎. 「James Dickey の詩と詩論」. 『英語青年』, 第 114 巻, 第 9 号, 1968, pp. 8-9.

後注

- 1 便宜上、ディッキーの作品については、*Into the Stone and Other Poems* (1960) を *Into the Stone, Buckdancer's Choice: Poems* (1965) を *Buckdancer's Choice, Complete Poems of James Dickey* (2013) を CP と略す。なお、底本としては CP を用いる。
- 2 ディッキーの主張を支持する批評家としては、Bennett (76, 91)、Bowers (*James* 8-9)、Calhoun (*James* 130-31)、Carroll (“James” 42-43)、Keesey (205)、Lieberman (“Worldly” 75-76)、Suarez (“Emerson” 117-20)、Tillinghast (55) などが挙げられる。
- 3 ディッキーはアイデンティティーの多面性について様々な作品で語っている。これに関しては、*Classes* (123-28)、*Night* (109-10, 191, 210, 321)、*Self* (53-54)、*Sorties* (155-161, 226-27)、*Voiced* (173, 133-38, 191-92, 256) を参照のこと。
- 4 ディッキーが作品の対象として中流階級の読者を選んでいたり、また、それにより保守的と見なされ、ブライだけでなく、新左翼的な傾向を持つ批評家からも批判されたことについては、Calhoun (*James* 130-31)、Smith (“James Dickey and His Reader” 88-89)、Smith (“James Dickey’s Motions” 242-43)、Suarez (“Emerson” 114-16)、Suarez (*James* 4-5, 13)、Tillinghast (55) を参照のこと。
- 5 ディッキーが引用しているクーリッジの発言は、1925 年にワシントン D.C. で開催された全米新聞編集者協会の会議で述べられたものである (Terrell)。
- 6 こうしたある種の露悪性は *Deliverance* にも見られる。ディッキーは次のように述べている。「彼 (主人公エド) が崖を登り、ライフルを持った男をどう罠にかけるか考える場面で示したかったのは、普通の家庭人でありながら、生まれつきの殺し屋の心理を持っているということだ。(中略) *Deliverance* は、通常なら表に出ない資質が、極限状態で引き出される様子を描いている」(*Night* 229)。
- 7 ディッキーによるエリオットや新批評に対するその他の批判については、*Classes* (49-50)、“Conversation” (12-13)、*Night* (250, 297)、*Self* (24, 47-48)、*Sorties* (8-9)、*Suspect* (9-10, 12, 14-15, 36-37)、*Voiced* (13, 43, 254) を参照。
- 8 ディッキーはウィリアムズの詩 “Between Walls” に触れ、詩において「詩的な題材」や「反詩的な題材」という概念は本質的には存在しないと述べている (*Voiced* 171-72)。この見解は、ホイットマンの影響を受けたウィリアムズが、ビール瓶の破片にすら美を見出し、詩に昇華したことに基づいている。
- 9 ディッキーがこの時期に発展させたナラティブ形式の詩に関しては、Bowers (“Selling” 116-18, 122, 127-28)、Calhoun (*James Dickey* 110)、Davison (“Difficulties” 47-49) の意見も参考にした。
- 10 なお、ディッキーは “Cherrylog Road” に関して、「ハックルベリー・フィンのような性質」を盛り込んだと述べている (*Self* 130)。これも、南部文学の伝統に影響を受けた一つの証拠と言えるだろう。
- 11 1930 年代の大恐慌、ニューディール政策、禁酒法、ダスト・ボウル、ホーボーなどに関する歴史や文化については、“Mandan and Bismarck”、“Northern Pacific Railway”、アンダーソン (『ホーボー (上)』22, 28-29, 37, 62, 78, 94-95, 131-33, 137-38, 142, 147-48, 164)、岡本 (6-9, 27-28, 131, 173, 185-86, 191, 202)、新川 (28-29, 73-74, 87-88, 109-10, 122-24, 153-54)、田家 (51)、中 (48-73)、林 (52-53, 68, 101-02, 147-53, 164-65) を参照した。
- 12 ホーボーとキリストの殉教を重ねたり、彼らの苦境をクリスマスシーズンと結びつけたりすること、さらに讃美歌の韻律を用いて皮肉やパロディとして社会の偽善や不正を批判するのは、ホーボー・ソング全般に見られる典型的な手法である。これについては、アンダーソン (『ホーボー (下)』84-125) や *On the Fly!* に収録された他のホーボー・ソングを参照のこと。また、ホーボーが鉄道関係者に虐げられる場面も、映画 *Emperor of the North Pole* (1973) に見られるように、ホーボー表象全般において繰り返

返し描かれるモチーフである。

- 13 スタインベックは *The Grapes of Wrath* の第 19 章で、フーヴァーヴィルに住む貧しい人々の生活や、そこで交わされる政治的な会話を描写している（ガスリーとアイヴスの自伝には、フーヴァーヴィルへの直接的な言及はない）（231-39）。また、詩の語り手がキリストと重ねられ、人々に向けて演説する様子は、同小説のジム・ケイシーを想起させるだろう。なお、ディッキーは 1962 年にイタリアでスタインベックと会ったことがある（Hart 279）。
- 14 その他、ディッキーの詩は、ホーボー表象において、ジャック・ロンドン（Jack London, 1876-1916）の *The Road*（1907）、ジョン・ドス・パソス（John Dos Passos, 1896-1970）の *The 42nd Parallel*（1930）、ジャック・ケルアック（Jack Kerouac, 1922-69）の *On the Road*（1957）や *The Dharma Bums*（1958）に連なるロマンティズムや急進的な政治性の伝統から逸脱していると言えるだろう。この点にこそ、ディッキーの詩の新しさがある。アンダーソン（『ホーボー（上）』137-38）、フェイエッド（10-11, 28-30, 40-41, 60-69, 82-89, 98-103, 116-24, 138-48）、川本（275）、中井（483）を参照のこと。
- 15 “A Folk Singer of the Thirties”の解釈に関しては、Baughman（*Understanding* 51-52）、Bowers（*James* 44-46）、Bowers（“Selling” 130-31）、Calhoun（*James* 61-62）、Dickey（*Night* 195-96, 266-67）、Dickey（*Summer* 116-20）、Dickey（*Voiced* 17, 68, 74）、Hart（157-58）、Kirschten（*James* 3, 103-05, 111-12, 164-65, 179）、Lensing（161-62）、Ramsey（74）、Thesing（*Reading* 17, 58-61）、Van Ness（*James* 16-17, 61-62; *Outbelieving* 14-15, 37）を参考にした。